

学校評価の結果について

(令和元年度)

学校法人旭川カトリック学園 砂川天使幼稚園

1. 本園の教育目標

学校教育法に準じながら、教育の根底をキリストの教えにおき、カトリック的な人間観に基づき日々の生活の中で、真理を求め、人を愛することに喜びを感じる心を育てることにある。人格形成の最も大切な幼児期に <お祈り・親切・がまん> をモットーに、祈る心、愛する心、ありがとうの心が育つことを願い、幼児にふさわしい環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的としている

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

本年度 10 月からの幼児教育の無償化に伴い、特に共働き保護者の幼稚園、保育園の選択に多少とも影響があることが考えられる。このような状況で本園のカトリック教育が、これからの幼児教育の根本となる「幼児期に育ってほしい 10 の姿」と合致していることを毎日の保育の中で保護者に感じてもらえるよう、これまでの教育に自信を持ち引き続き遊びを中心としながら、子ども自信が主体となり考え取り組んでいける力を身につける教育にさらに取り組んでいく。また、教職員の充実を図り働き方を考慮しながら、教職員一致した方向性で子ども達のより良い成長を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取組み状況
1. 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">園の教育理念・教育目標の共通理解のもと、常に子どもを主体とし行事や保育のあり方など職員会議や学年ごとで話し合い、共通理解し翌月の保育計画につながるよう努めている。週案を基に日々の反省と共に個々の子どもの様子をとりえ反省と共に次週への課題・ねらいとしている。
2. 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">園舎内外の安全には十分留意し、毎朝、遊具等の安全点検を行い、職員全員で状況把握し危険が及ばぬよう配慮している。また、旧園舎の老朽化の補修を早急に行う必要がある。どんな場面でも子どもに寄り添い、カトリック園の教職員として愛を持って接している。職員全員が共通理解のもと園児ひとり一人の様子を把握し、教師間連絡を密にし、担任以外の園児にも対応していると共に異年齢との交流を大切にしている。
3. 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。	<ul style="list-style-type: none">組織の一員として自分の思いを伝えると共に他の教職員の意見を聞き、職員全員が一つのチームであることを自覚している。保育者としての意識と自覚と責任をもった言動で園児や保護者に接すると共に、子どもの心を大切に話をよく聞き、園児一人一人との信頼関係を築き園児の成長に繋げている。
4. 保護者への対応及び家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情に適切な対応を図る。	<ul style="list-style-type: none">子どもの変化の様子や個人的な相談や連絡にも電話や手紙等でその日に対応するようにし信頼関係を築くようにしている。保護者からの相談や要望には職員会議等で提示し話し合いのもと真摯に対応し保護者のニーズを把握し可能なことは要望に応じよう心掛けている。今後も保護者に寄り添える対応をする。
5. 地域社会との連携 地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域解放の努力をする。	<ul style="list-style-type: none">毎年行っている年長児の老人ホーム慰問に加え年中児にも施設から依頼あり慰問を行い子どもたちにとってもお年寄りに触れる良い機会となっている。しかし地域との関わりをもつ機会を作れず今後の課題となる。例年通り砂小との交流は数回行われたが、他の小学校との交流や教師間の連携を取ることが難しい状況である。しかし、進学児の引き継ぎは各小学校と行っている。

<p>6. 研修と研究 研修・研究を積極的にいき、専門性を高め、努力をする。</p>	<p>・毎年、カトリック学園・北私幼の一定の研修会には参加するが他の研修にはなかなか時間が取れないため参加できない。保育の専門性を深めるためそれぞれ研修、研究への意欲を持ち研修会に参加する努力はしているが、引き続き今後の課題として毎年数名ずつ研修等に積極的に参加すると共に、研修内容を分かち合い園内研修の充実を図っていく。</p>
<p>7. 情報公開 保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報保護に留意しつつ、積極的に園便り等で公開する努力をする。</p>	<p>・園だより、クラスだより、園内写真掲示、地方新聞掲載等で保護者に園内活動をお知らせしている。また、学校評価結果においてもホームページ、園内閲覧で公表している。引き続き本園の特徴、良さ、教育目標の理解を深めていただき、より開かれた幼稚園を目指し情報公開に努め、地域に根ざした幼稚園づくりに努めていく。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>毎年の自己評価を通し、個々の改善点を認識し次年度に向けての課題として取り組んでいる。しかし学校評価開始以来、課題があることがなかなか改善されていないのが現状である。その中でも地域や小学校との関わりを持つことができていることや、研修研究が十分でないことがある。いずれも環境と時間がないことが原因と思われるが、このことは個人だけの問題ではなく、園全体として環境や体制を整え小学校の統合にも期待をして外部との連携を取りつつ少しずつ改善し、地域にとって必要な幼児教育の場としての役割を果たしていくことを目標とする。</p>
--

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>安全管理 ・緊急災害時の具体的な対策 ・防災用具の常備</p>	<p>・毎月火災地震避難訓練を行っているが、現状の社会情勢を考慮し今後さらに様々な状況でも園児確認や避難場所、保護者への通達方法を明確にしていく必要がある。また避難訓練を通して園児達に災害等に対応できる知識と行動について認識させ身につけていく。防災用具の常備についても、防災頭巾は園児数常備し訓練にも用いているが、水・食料等についても検討していく必要がある。</p>
<p>地域社会との関わり ・小学校との連携 ・子育て支援</p>	<p>・次段階の小学校入学のため小学校との連携がとれるよう具体的な方法を話し合い、各小学校へも理解を求めていく。また、入園前の未就園児や保護者に対しての子育て支援（ひよこルーム、園庭開放等）のあり方を、より機能的にまた入園に繋がるように教職員間で話し合い共通理解を深める。 ・幼稚園が町内会に身近な存在として受け入れられ、気軽に行事等に参加できるよう考慮していく。</p>
<p>教員の研修と園内研修</p>	<p>施設給付型の幼稚園として、質の高い保育を目指し保育者一人ひとりが研修を重ねキャリアアップが必要である。そのため教職員各自が積極的に研修に参加できるよう体制を整え、よりよい保育を行い保護者に施設給付型の幼稚園に移行したことで子育て支援を十分に受けられている実感を持ってもらい、幼稚園や教職員を信頼してもらえるように保育者としての資質と技術の向上を目指していく。</p>

6. 学校関係者の評価

<p>本園は砂川市唯一の幼稚園ということで入園する人が多いが他の市町（三市三町）からの入園もあることから、多くの方に当幼稚園の根底である心の教育「キリスト教精神に基づいたカトリック教育」を中心においた保育に理解と協力を得ている。その中で様々な活動を通し、子どもの心身の成長・保育者の愛情のある関わり・園と保護者の連携などを適切に行っているとの評価を得られたと共に、教職員に対しての評価や子どもや保護者の対応についても信頼度の高い結果を得ることができた。また要望として、昨今ご両親共に就労している方が増えたこともあり長期休暇の預かり日数を増やしてほしいとの意見もあった。この結果を踏まえ今後も園として保護者の多様な思いを真摯に受けとめ、保護者と園とが同じ思いで、さらにカトリックの精神を生かし現状に留まることなく新しいことにも目を向け、子どもの心を大切にすより向上する保育に努めていきたい。</p>
--

7. 財務状況

<p>大手監査法人である太陽有限責任監査法人（東京）の監査を受け、適正に運営されていると認められている。また、法人本部の財務状況報告により効率的な運営に努めている。</p>
--